

### 令和元年度 久喜市青少年問題協議会 協議のまとめ（情報提供）

令和元年度久喜市青少年問題協議会では、以下の5つのテーマについて協議を行いました。各委員から多岐にわたる意見等が出されましたので、情報提供いたします。

#### **テーマ1** 各委員が目にした子どもたちの様子

- ・子どもからの訴えや外傷が認められた際の聞き取りにより、親から子への虐待（暴力、ネグレクト等）が発覚する場合がある。
- ・子どもが保護者に暴力をふるい、親子関係が断絶に陥っている状況がある。
- ・スーパー等で駄々をこねている子に対して、母親が頭ごなしに怒ったり、「てめえ」とか「ふざけんじゃねえよ」など言葉使いが悪い人がおり、子どもへの影響が心配である。
- ・子ども同士がSNSで繋がりを求める傾向が顕著であり、良くも悪くもネットワーク化が進んでいて、大人の見える範囲での行動とは別の世界が構成されている。
- ・小学生高学年の女の子が「中学校って大変なのかな、心配。」と言っていた。おそらく周りの子たちとの間で噂が広がり、不安が膨らんでいるかもしれない。SNSなどの媒体を通して、過剰な情報が現実の問題や心配事を大きくしているように思える。
- ・登下校時に見かける子供の様子は、元気がある子供と不安な顔つきの子供に分かれている。
- ・小・中学生は、登校時に通学班で行動しているが、元気に明るくあいさつできる子は少ない。また、下向きで歩き、おしゃべりやいたずらをしながら登校する子、あいさつの声は小さく、できない子もいる。下校時は、学年ごとに行動しているが、明るい笑顔で元気に帰ってくる子どもが多い。また、下校時はあいさつもよくできている。
- ・保護者不在の家庭では、子どもが引きこもりとなり、学校を長期欠席する状況が見られる。

- ・携帯電話を持ち、話しながらの歩行、自転車走行（主に高校生）をしている子どもが見受けられ、自転車の乗り方、交通ルールを守らず、危険を感じる。
- ・外で遊ぶことが少ないのか、遊ぶ場所が少ないのかわからないが、休日でも公園等であまり子どもを見かけない。

### テーマ2 青少年の健全育成に向けて保護者・関係者の援助

- ・あいさつや声掛けを通して、地域の育成者の顔を知ることや、育成者も地域の子どもを知ることでお互いに信頼関係を築ける。
- ・登校時に、保護者による立哨当番や地域の人などが、あいさつや声掛けを行っている。また、コミュニティスクールで挨拶運動を行っている。小・中合同で挨拶運動を実施している。
- ・登下校時を問わず、あいさつや声掛けをすることで、子ども達と顔見知りになれる。同様に親にもあいさつや声掛けをすることで、地域の子、地域の人等の気持ちになって、お互い接してもらうことができる。
- ・地域の行事に親子での参加やスタッフとして活動する機会を増やしたり、若い人やお年寄りも地域の活動にも積極的に参加し、子どもの成長と親の子育てを地域で応援する体制づくりを行う必要がある。
- ・保護者自身も迷いながら模索しながら子育てしていることから、第三者や専門のカウンセラーなど、気軽に相談できる雰囲気を生み出すことが大切である。

### テーマ3 子どもを取り巻く生活環境で気になっていること

- ・SNSで知り合った相手とやりとりする中で、児童ポルノ等の福祉犯被害に遭う者が多い。
- ・学校からの帰宅後に、外で遊んでいる子をほとんど見かけなくなった。自宅でSNSやユーチューブ、ゲームなどに依存し、直接的な人間関係づくりができていない子どもが多く見られる。
- ・不審者情報の配信時の周辺警備等は、どのように対処されているのか、その場所での日常的な見守りについての配慮はなされているのか疑問を感じている。
- ・夜間の時間帯に、イヤホンやスマホをしながら歩行しているなど、痴漢や盗撮などに対する防衛意識が低い。

- ・制服を着た男女が薬局に来店して、堂々と生理用品を購入したと聞いた。
- ・他市の事例で、スーパーのトイレで女兒が性的被害を受けたと聞いたことがある。
- ・小学生が通学する狭い道に、「一時停止」等の標識がなく危険な箇所がある。
- ・小学生は信号機のない道路の渡り方、中学生は車道を走る自転車が気になっている。
- ・極端に帰宅が遅い小・中学生がいる。
- ・習い事や塾に通っている子どもが多く、自分の自由な時間が深夜しかもてない。そのため、就寝時間が遅くなり、朝に起きられない状況が見られる。
- ・夜間の時間の街灯が少ない。

#### **テーマ 4** 現在取り組んでいる子どもの安全を考えたときに配慮すべきこと

- ・地域における危険な場所、不審者情報等を共有するほか、周囲の大人が具体的な危険性を理解し、助言する。
- ・子どもの登下校時に、保護者や地域の人ができるだけ外に出て、その状況を見守り、日常的に声掛けをする。
- ・下校時刻に、市の防災無線での見守りを呼び掛ける放送に、「外に出て」の見守りをお願いする文言を加える。
- ・パトロール時間帯以外の様子が見えないので、青少年の保護者と地域の人々が一体となり、健全育成に取り組むことが必要である。
- ・スマホとの付き合い方、インターネットの利用上の危険性等について、保護者も含め、チラシやリーフレット等で啓発する。
- ・車の運転中は、歩行者のいる横断歩道で必ず停止し、安全な横断をさせるなど、集会時等で交通安全指導を行う。
- ・通学路の防犯カメラを増やす必要がある。
- ・通学路の安全点検や横断歩道の点検等を行う。
- ・ゴミの持ち帰りなど、街を清潔に整理整頓された状態に保つ。

### テーマ5 青少年問題を防止する方策

- ・ 青少年が陥りやすい犯罪（特殊詐欺の受け子、薬物乱用、JKビジネス、ネットトラブル、児童ポルノ被害等）について、保護者や地域の人に向けたチラシやポスター、リーフレットを配布する。
- ・ SNSやインターネットを利用上の危険性や薬物乱用防止、児童ポルノ、性教育等の学習機会を設ける。
- ・ 声を掛ける、手を引く、後をつける等の行為（声掛け事案）を把握した際には、パトロールを実施する。
- ・ 市、学校、地域が連携を密にし、「地域の子供は地域で育てる」という意識を強く持ち、定期的な情報交換や巡回活動を組織的に行う。
- ・ 子どもたちがゲームだけでなく、熱中できるものに出会えるように大人が導いてほしい。（特に幼稚園、小学生などの先生）
- ・ 幼稚園、小学校の先生の人数の充実や資質の向上をしてほしい。
- ・ 地域が青少年と積極的に関わる機会を増やすことや地域の人が気軽に参加できるような取り組みが必要である。
- ・ 地域の人が警察などの専門機関を怖がらずに何かあったらすぐ通報してほしい。
- ・ 地域の人でもSNSのことを勉強して、子どもたちを支援できるとよい。
- ・ 保護者や地域の人達にもっと外に出て声を掛けてほしい。防災無線で登下校の時間帯に「手の空いている人は外に出て見守ってください」ということも入れたほうがよい。
- ・ 子どもたちの地域で遊べる場所が不足している。

久喜市青少年問題協議会

会 長	小 松 智 子	
副会長	宮 内 智	
委 員	河 村 建 介	久喜警察署生活安全課長
委 員	大 塚 英 世	幸手警察署生活安全課長
委 員	寺 井 進一郎	久喜市校長会 久喜東中学校長
委 員	猪 野 敏 夫	市内高等学校長 久喜工業高等学校長
委 員	杉 山 公 子	埼玉県中央児童相談所 地区担当児童福祉司
委 員	松 本 浩 司	久喜市 PTA 連合会監事
委 員	山 崎 正 夫	久喜市民生委員・児童委員協議会第一地区民協副会長
委 員	宮 内 智	久喜市青少年育成市民会議会長
委 員	坂 本 孝 夫	久喜・幸手地区保護司会 久喜支部
委 員	小 松 智 子	学識経験者
委 員	細 田 清	公募による市民
委 員	堀 井 昭 雅	公募による市民
委 員	小 林 恵 子	公募による市民
委 員	山 中 今日子	公募による市民
委 員	塚 越 晴 美	公募による市民